

平成 28 年 10 月 24 日

## 平成 28 年度モーダルシフト取り組み優良事業者の受賞者を決定

～大賞は 2 件 5 社に決定～

日本物流団体連合会（工藤泰三会長）は、「モーダルシフト取り組み優良事業者公表・表彰制度」の受賞者を決定した。

モーダルシフト最優良事業者賞（大賞）は、今年度は 2 件が受賞となり、1 件はトナミ運輸株式会社、第一貨物株式会社、久留米運送株式会社及び 3 社の合弁会社であるジャパン・トランズ・ライン株式会社の 4 社連名案件『東京～九州間 31 フィートコンテナ共同運行について』が受賞した。

もう 1 件は、株式会社ニチレイロジグループの株式会社ロジスティクス・ネットワークの案件『幹線輸送における各種モーダルシフトの取り組みについて』が受賞した。

物流連は平成 15 年より、モーダルシフトに積極的に取り組む物流事業者を会報等で公表してきたが、一昨年度より優良事業者の表彰を中心とする制度へ移行しており、表彰制度としては第 3 回目の受賞となる。

本制度の主旨は、物流業界における人手不足が深刻化する中で、環境負荷低減のみならず、労働生産性向上の観点からも大量輸送機関の重要性が増している状況下、他の模範となる物流事業者を表彰し、その取り組みを広く社会に紹介し、モーダルシフトを更に促進しようとするものである。

各応募案件は「モーダルシフト優良事業者選定委員会（委員長：竹内健蔵 東京女子大学教授）」にて審議の上、11 件 15 社が優良事業者として選定された。

表彰案件の概要は、別紙の通りである。

表彰式は、11 月 4 日（金）16 時 45 分より、海運クラブにて開催される。

以上  
事務局 笹山

# 平成28年度モーダルシフト取り組み優良事業者

## 公表・表彰の概要

### 1. モーダルシフト最優良事業者賞(大賞) (表彰2社)

被表彰者：トナミ運輸株式会社

第一貨物株式会社

久留米運送株式会社

ジャパン・トランス・ライン株式会社

功績事項：東京～九州間31フィートコンテナ共同運行について  
(4社連名案件)

トナミホールディングス(株)、第一貨物(株)、久留米運送(株)の3社は、関東～関西間の幹線輸送における良質なサービス提供と運行効率化を目指し、合弁会社であるジャパン・トランス・ライン(株)を立ち上げ、幹線輸送の一部を共同で実施してきた。

その輸送の更なる効率化を目標に、2015年11月より東京発九州行の貨物について、31ft 鉄道コンテナによる東京貨物ターミナル駅～福岡貨物ターミナル駅間で鉄道輸送へのモーダルシフトを実施した。

特筆すべきは、3社の荷物を一基のコンテナに混載することであり、これによりコンテナを常に満載状態で輸送する効率的な輸送形態を実現した。

また、2016年8月からは更にもう1系統増やし、このコンテナの帰り荷として九州発東北宛てを関東集約とする貨物の輸送も開始した。

支店における貨物の積載、合弁会社を通じた効率的な輸送手配、着地からの効率的な転送など、各社の協力により実現した輸送形態は、改正物流効率化法が目指す効率的な輸送に合致した、括目すべき案件である。

被表彰者：株式会社ロジスティクス・ネットワーク

功績事項：幹線輸送における各種モーダルシフトの取り組みについて

(株)ロジスティクス・ネットワークは以前よりモーダルシフトを推進しており、以下の改善手法を用いて積極的に取り組んできた。

1. 鉄道あるいは船舶を利用した拠点間転送

2. 船舶による複数荷主の混載輸送

3. 1. に加え、工場から拠点への転送や拠点からお客様への納品にもモーダルシフトを開始

4. 需要予測システムを活用し、モーダルシフトの柔軟な運用を実現

5. 船舶同士の乗り継ぎによるモーダルシフトの更なる推進

(現に平成27年度のモーダルシフト実績についても、前年度と比較しモーダルシフト輸送比率の改善を実現している。)

10年以上に渡って継続されてきた取り組みの息の長さと、今後に向けて新規航路の開拓や10t車の無人航送の実現等、更なる拡充に努める積極的な姿勢が高く評価された。

## 2. モーダルシフト取り組み優良事業者賞

### ①実行部門 (表彰1社)

被表彰者：日本石油輸送株式会社

功績事項：幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が40%超えを実現

日本石油輸送(株)は、幹線区間における貨物総輸送量のうち鉄道・海運の利用比率40%超という基準を達成した。

### ②改善部門 (表彰1社)

被表彰者：山九株式会社

功績事項：幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が40%を超えるとともに、前年度を上回る実績を達成

山九(株)は、拠点間の幹線区間における輸送量について大量輸送機関の占める割合を、鉄道・海運共に向上させた。平成27年度における実績が全輸送量中45.7%であったのに対し、平成27年度においては49.0%を達成し、前年度と比較し、モーダルシフト輸送比率の改善を実現した。

### ③新規開拓部門 （表彰5社）

被表彰者：味の素物流株式会社

功績事項：新規モーダルシフト案件の実現とその継続

味の素物流(株)は、メーカーが新たに神戸⇒北九州間で大量輸送する案件のモーダルシフトを提案・実現した。

神戸⇒北九州間の製品転送は極めて少量であり、従来はトラックを使用して輸送していた。しかし、メーカーでの拠点再編に伴い、製品転送量が大幅に増加することから、味の素物流(株)は第一優先輸送モードをフェリーとするシャーシ航送を提案・実現した。さらに、航路の異なる船社を併用することにより、運用面において柔軟性をもたせて需要の増減に対応するとともに、大量輸送と代替性の確保を実現した。

被表彰者：センコー株式会社

功績事項：新規モーダルシフト案件の実現とその継続

センコー（株）は、従来トラックにて行っていた輸送案件2件のモーダルシフトを実施した。

1. 大阪～川崎間で行っていた輸送の一部を、トラックから31ft コンテナを使用した鉄道輸送へ転換した。

帰り荷確保の策として空のカゴの返送を行い、輸送コストの削減に努めている。

また、着地での配達時間は余裕をもって午後とし、着側の効率的な人員配置を支援している。

2. 従来平ボディー車直送で対応してきた愛知(小牧)の工場から山口(岩国)のデポ・宮城の建築現場への住宅部材の輸送を、それぞれ名古屋～新門司・仙台間の幹線輸送をフェリーによるシャーシ航送へ転換した。

重量物であり尚且つリードタイムに余裕があるという建築資材の特徴を生かし、海上輸送への転換を実現した。

宮城での納品は、自社デポを活用することで急な納品変更や仮置きにも対応可能としている。

被表彰者：株式会社日陸

功績事項：新規モーダルシフト案件の実現とその継続

(株)日陸は、従来タンクローリーにて行っていた輸送案件のモーダルシフトを実施した。

従来タンクローリーで輸送していた関東～西日本各地への化成品輸送を、ISO規格タンクコンテナを使用した鉄道輸送へ転換。

配達先は西日本地区全域という広範囲に及ぶが、北九州、東水島、大阪(百済、安治川口)の3拠点(4駅)を着地に設定し、拠点間大量輸送ときめ細やかな配送を両立させている。

被表彰者：株式会社日立物流

功績事項：新規モーダルシフト案件の実現とその継続

(株)日立物流は、従来トラックにて行っていた輸送案件のモーダルシフトを実施した。

トラックで行っていた医療用機器の輸送を、12ft汎用コンテナを使用した鉄道輸送へ転換。従来敬遠されがちだった精密機器の輸送を、日立物流独自のテクニカルセンタでの振動試験および越谷～鹿児島間往復のテスト輸送による温湿度・振動試験、また荷物の養生・荷役作業に特段の工夫を凝らすこと等、約4ヶ月間の準備を行い、汎用コンテナによる鉄道輸送を実現した。

被表彰者：ヤマト運輸株式会社

ヤマトロジスティクス株式会社

功績事項：新規モーダルシフト案件の実現とその継続

(2社連名案件)

ヤマト運輸(株)及びヤマトロジスティクス(株)は、従来トラックにて行っていた輸送案件のモーダルシフトを実施した。

インバウンド需要等で取り扱いが増えている北海道の菓子商品を本州各地の催事場へ輸送するにあたり、一部トラック直送から鉄道・海運に転換した。

札幌貨物ターミナル駅～隅田川駅の鉄道、苫小牧港～常陸那珂港の内航海運

を併用することで弾力的な運用を実現し、需要の急な増減に対応した。

北海道から関東に到着した商材はヤマトロジスティクス(株)の神奈川ロジセンターで在庫管理し、ヤマト運輸(株)の宅急便として出荷、自社の物流網に載せて効率的な輸送を実現している。

#### ④有効活用部門 (表彰1社)

被表彰者：濃飛倉庫運輸株式会社

功績事項：複数のモーダルシフト案件を実施し、効率的な輸送を実現

濃飛倉庫運輸(株)は、大幅な輸送の効率化を実現するモーダルシフト案件を、以下の通り3件実施した。

1. 大型トラックにて行っていた東京から京都への化粧品容器の輸送を31ftコンテナを用いた鉄道輸送に転換した。

京都から東京への輸送は既に別荷主による鉄道輸送を実施しているため、当案件と組み合わせることにより31ftコンテナの往復実入り輸送を実現した。

2. 大型トラックにて行っていた埼玉から岩手へのアパレル商品の輸送を、40ft海上コンテナを用いた鉄道輸送に転換した。

海上コンテナを内貨に活用する画期的な施策であり、3.の案件と組み合わせることでコンテナラウンドユースも実現、効率的な輸送体系を構築した。

3. 東北地方の輸出者が京浜港を利用して輸出する際に発生する東北から京浜港までの陸上輸送を、鉄道輸送に転換した。

2.の案件と組み合わせることで、同一のコンテナによる往復実入り輸送を実現し、コンテナの空回送を削減する効率的な取り組みを実現した。

#### ⑤改善部門・新規開拓部門 (表彰1社)

被表彰者：日本通運株式会社

功績事項：幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が40%を超えるとともに、前年度を上回る実績を達成 並びに、モーダルシフト実施による輸送の大幅な効率化の実現

日本通運（株）は、拠点間の幹線区間における輸送量について大量輸送機関が占める割合について、平成26年度における実績が全輸送量中53.5%であったのに対し、平成27年度においては54.1%を達成した。前年度と比較し、モーダルシフト輸送比率の改善を実現した。

それと共に、大幅な輸送の効率化を実現するモーダルシフト案件を、以下の通り3件実施した。

1. 札幌～函館・釧路間での食品輸送について、トラック輸送から12ft コンテナでの鉄道輸送に転換。複数メーカーの商品を混載し、効率的な輸送を実現。
2. 静岡(菊川)～九州(唐津)間での製品輸送について、トラック輸送から大阪～北九州間をフェリー航送へ転換。
3. 静岡～福岡間での製品輸送の一部について、トラック輸送から御前崎港～刈田港を内航シャーシ輸送に転換。